

MAFF ナビ いわて

東北農政局 岩手県拠点
令和7年6月

本紙は、農業や食料に関する情報をデータで提供し、農業関係者から消費者まで、多くの皆さんが農産物の生産・消費に興味を持ち・考えていただくきっかけとして発信しています。

今回は、“米（コメ）”にスポットを当て、生産費（生産に要する費用）、作付面積、収穫量、10a当たり収量及び消費の動向等を取り上げました。

日本の“食”に欠かせない“米（コメ）”を継続して食べる（生産する）ために、消費者・生産者それぞれの視点から考えてみてはいかがでしょうか。

また、生産性のみならず、近年、話題となっている環境に配慮した取組についても、再度考えていただければ幸いです。

※ 本資料における“米（コメ）”は、すべて“玄米”となります。

1 米の生産費について

（1）全国・東北の米生産費（10a当たり）

全国及び東北における令和5年産の米の10a当たり生産費（資本利子・地代全額算入）は、全国及び東北とも前年産に比べ増加しました（図1）。

一方、所得については、費用（生産費）が増加したものの、米の収量がそれを上回ったことから増加したところです。

全国と東北を比べてみると、生産費の多少により東北の所得が令和3年産を除き上回っています。

なお、生産費を5kgあたりに換算すると、全国で1,329円、東北では1,123円となります。

図1 生産費及び所得の推移（個別経営体・10a当たり）（全国・東北）



資料：農林水産省統計部「農業経営統計調査 農産物生産費統計」

注：1 奨励金、交付金等は計上していない。

2 所得とは、生産費総額から家族労働費、自己資本利子および自作地地代を控除した額を粗収益から差し引いたもの。

3 収益性指標（所得）は本来、農業経営全体の経営計算から求めるべき性格のものではあるが、ここでは該当品目部門についてのみ取りまとめているので、利用に当たっては十分留意されたい。

（2）岩手の米生産費（10a当たり）

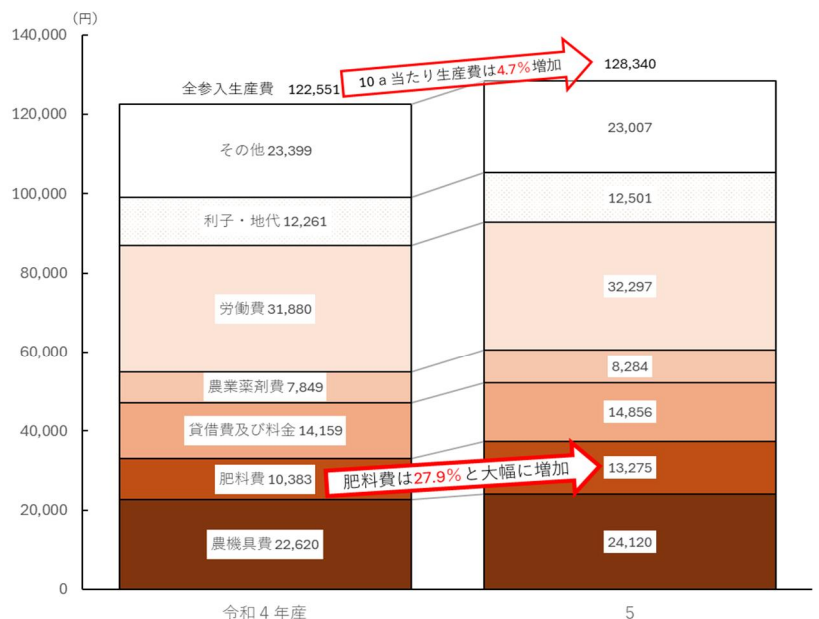
岩手県における令和5年産の米の10a当たり生産費（資本利子・地代全額算入）は12万8,340円で、前年産に比べ4.7%増加しました（図2）。

費目別にみると、特に増加率が高かったのは肥料費で2,892円（27.9%）、次いで農機具費1,500円（6.6%）、農業薬剤費435円（5.5%）、賃借費及び料金697円（4.9%）とそれぞれ増加しています。

肥料費の増加は、原料の国際相場の影響を受け、令和4年6月以降、国内価格が大幅に上昇したことが影響していると考えられます。

最新となる令和6年産米生産費は、令和7年10月の公表予定です。

図2 全参入生産費（個別経営体・10a当たり）（岩手）



資料：農林水産省統計部「農業経営統計調査 農産物生産費統計」

注：1 肥料価格高騰対策の支援金は計上していない。

2 集計経営体数は20経営体である。

3 米に係る道府県別の調査結果においては、調査対象経営体数が少ないため利用に当たっては十分留意されたい。

2 水稲（子実用）の作付面積、収穫量及び 10a 当たり収量の推移（岩手）

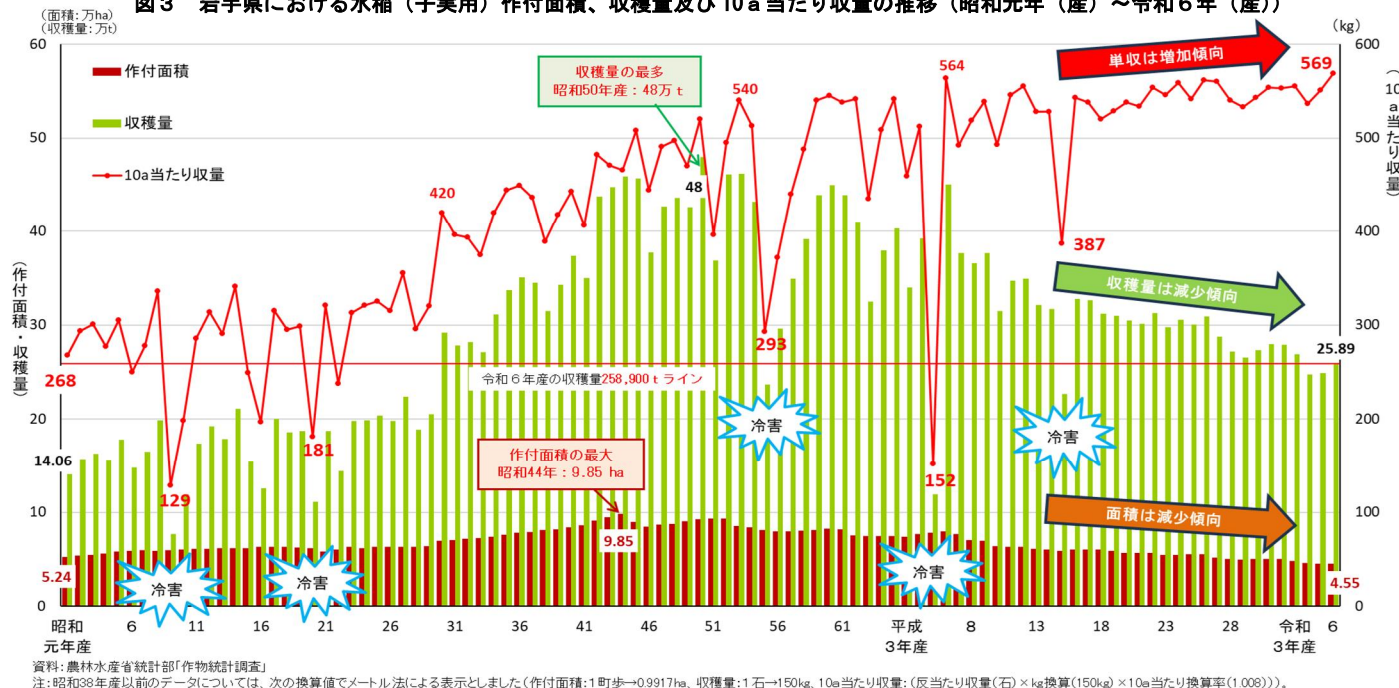
岩手県の水稲について、昭和元年産以降の推移を振り返ってみます。

作付面積は、昭和 44 年の 9.85 万 ha が最大でその後に減少傾向で推移、収穫量については、昭和 50 年産の 48 万 t が最も多くその後は減少傾向となっています（図 3）。

なお、昭和 9 年産、同 20 年産、同 55 年産、平成 5 年産及び平成 15 年産については、夏期における低温の影響（冷害）等により大幅に減収しました。

10a 当たり収量については、昭和 20 年代までは 300kg/10a 程でしたが、昭和 30 年代以降急速に増加、平成 16 年産以降については 520～569kg/10a と比較的安定しています。

図 3 岩手県における水稲（子実用）作付面積、収穫量及び 10a 当たり収量の推移（昭和元年（産）～令和 6 年（産））



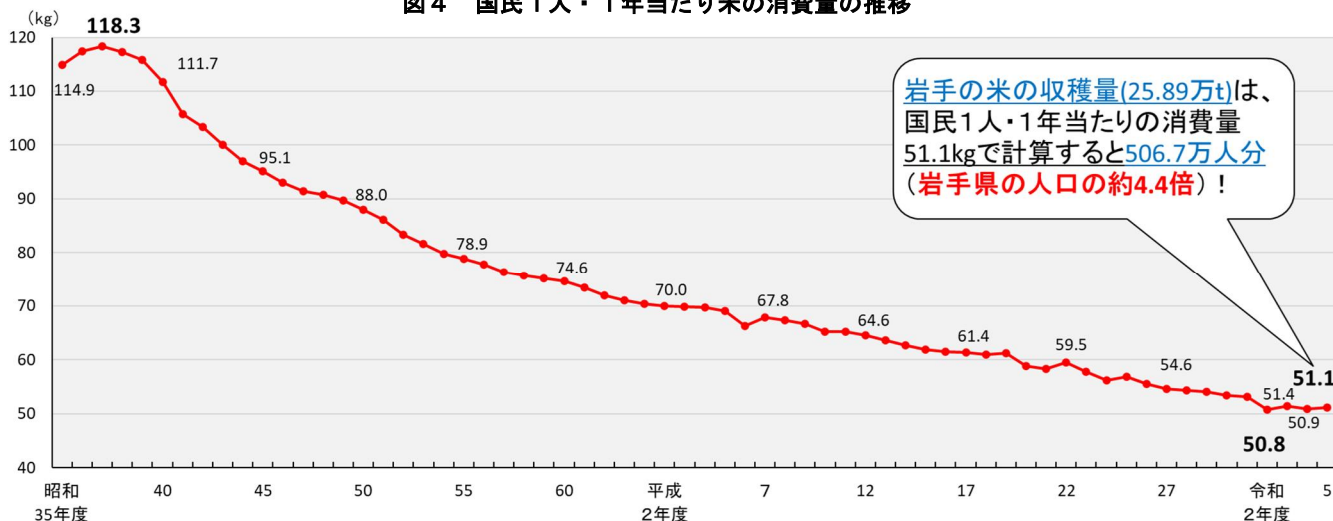
3 国民 1 人・1 年当たりの米の消費量の推移

国民 1 人・1 年当たり供給純食料の前年度比較（食料需給表）では、昭和 37 年度の 118.3kg をピークに年々減少していましたが、令和 2 年度以降横ばい傾向で、令和 5 年度は令和 4 年度の 50.9kg から 51.1kg（+0.2kg）と、わずか（0.5%）に増加しています（図 4）。

なお、図 3 における令和 6 年産岩手県の米の収穫量（25.89 万 t）を、国民 1 人・1 年当たりの消費量（51.1kg/年）で計算すると、506.7 万人分（岩手県の人口の約 4.4 倍※）となります。

（※ 岩手県の人口：1,144,407 人（令和 6 年 10 月 1 日現在「岩手県 HP より」）で算出）

図 4 国民 1 人・1 年当たり米の消費量の推移



資料：農林水産省「食料需給表」

4 主食用米の価格の動向（取引価格）（全国）

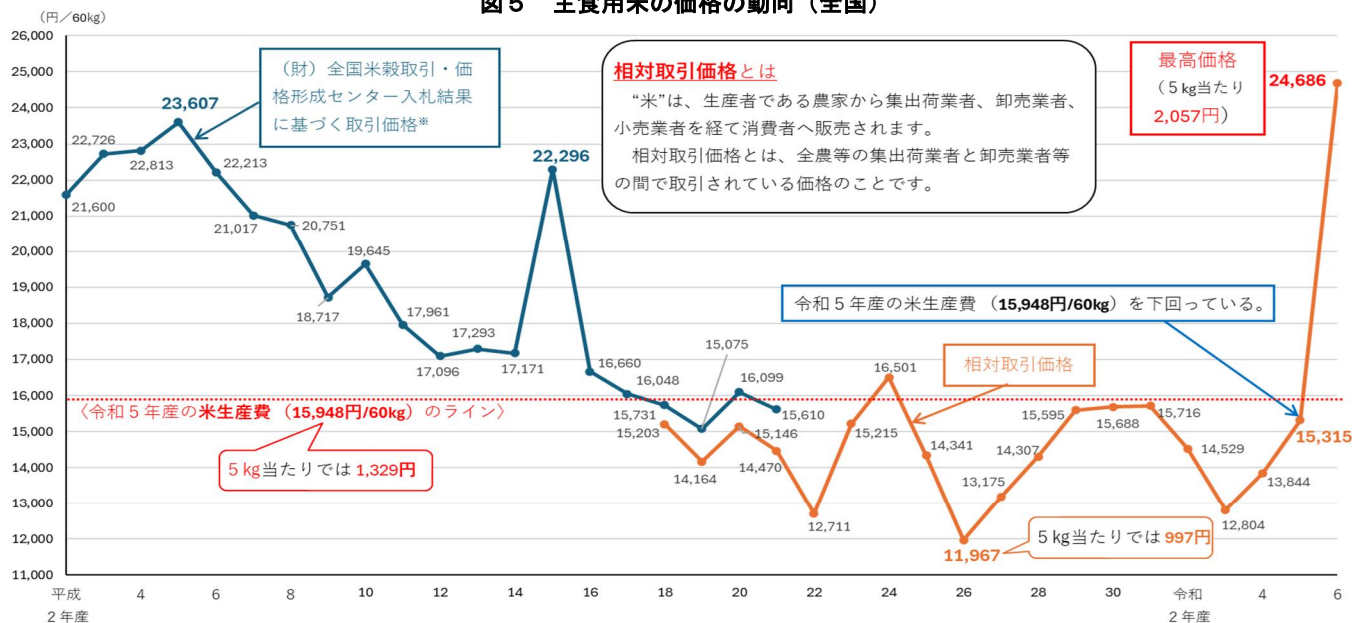
令和6年産米の出回りから令和7年5月までの出荷業者と卸売業者等の取引価格である相対取引価格（年産別平均価格）は、24,686 円／60kg で、比較可能な平成2年産米以降で最高価格となっています（図5）。

令和6年産は（出回りから5月までの平均）の相対取引が早いペースで取引（契約）が進み、価格は高値で推移しています。

なお、(財)全国米穀取引・価格センターにおける平成5年産米（23,607 円／60 kg）及び平成15年産米（22,296 円／60 kg）等においては、冷害により収穫量が減少したこと等により高めとなっています。

また、平成18年以降の相対取引をみると、11,967 円／60 kg～16,501 円／60 kg と、平成24年産を除き令和5年産の生産費（15,948 円）を下回る水準となっています。

図5 主食用米の価格の動向（全国）



資料：(財)全国米穀取引・価格センター入札結果、農林水産省「相対取引価格」

注：1 価格には、包装代、運賃、消費税相当額等を含む。

2 年産別平均価格（令和6年度は、出回りから令和7年5月までの速報値）

※ コメ価格センター取引は、自主流通米の指標価格の形成を図るため実施されていたが、平成16年の食糧法改正により計画流通制度が廃止され、義務上場がなくなったこと等を背景に取引が低調となり、平成21年度をもって取引を中止した。

・コメ価格センター取引が低調となったことを受けて、コメ価格センター取引価格の指標性を確認する観点から、相対取引価格について、農林水産省が18年産米から年間取扱数量5,000トン以上の全国出荷団体等と卸売業者の取引価格を調査し公表している。その後も米の価格動向を把握するため引き続き実施している。

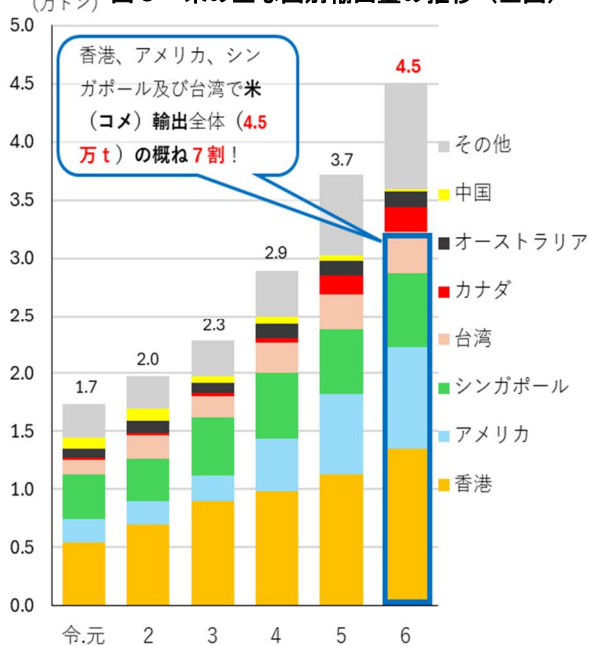
5 米・米加工品の輸出拡大について

米の輸出は近年、年率10%を上回る増加が続いていて、令和6年の「米・パックご飯・米粉及び米粉製品」の輸出量は4.6万トン（前年比22%増）で、そのうち米は4.5万トンとなっています（図6）。

米の主な輸出先は、香港、アメリカ、シンガポール及び台湾で、米（コメ）輸出全体の概ね7割を占めています。おにぎり屋や寿司店等の日本食レストランの増加等、外食向けを中心に需要の増加が見られます。

米の輸出拡大を図ることは、国内生産基盤を維持する上でも重要であり、更なる生産拡大に取り組む必要があることから、「食料・農業・農村基本計画」では、輸出向け産地を新たに育成し生産性の向上の取組を進めるとともに、海外における需要拡大を図ることにより、輸出重点品目である「米・パックご飯・米粉及び米粉製品」として35.3万トンの輸出量の達成を目指すこととしています。

図6 米の主な国別輸出量の推移（全国）



資料：財務省「貿易統計」（政府による食料援助を除く。）

6 花巻市太田地区の老人クラブ連合会が農作業（田植え）体験を主催

岩手県花巻市太田地区の老人クラブ連合会では、花巻市立太田小学校の5年生（15名）及び富士大学経済学部海邊ゼミの学生（11名）を迎えて田植え（手植え）体験を行いました。同連合会の堀岡正康会長は、「平成2年から次世代を担う小学生に田植えを始めとする農作業体験を実施（大学生は今回が初めて）、農作業への関心を高めるとともに収穫の喜びを味わってもらいたい。」と話していました。

参加者は、裸足で田んぼに入り、足をとられながらも丁寧に苗を植えていました。10aに植えられた“ひとめぼれ”は、秋に収穫作業（稲刈り、脱穀など）の体験を行う予定となっています。

田植え終了後、質問・感想などを話す“交流”が行われ、小学生からは、「田んぼの水はどこから来るの」、「米作りはどんなところが大変ですか」。大学生からは「裸足での田んぼは初めてで新鮮だった」、「多くの



“田植え”の説明をする老人クラブ連合会の方々

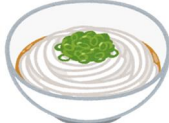
人たちが作業したが時間を要した。機械化など技術革新のありがたみを感じた」など、“水”そして“お米”のありがたさ、作業の大変さを経験豊かな大先輩から実際の体験を通して学んだ、実り多い体験となりました。

海邊教授は、「地域の皆様にご協力をいただきながら農業への理解を深めてきた。県外出身の学生も多く、田んぼでの手植えは貴重な経験。米の価格高騰等がニュースとなる中で、米を国内で生産することの意味を考えるきっかけになることを期待している。食べ物のありがたみを感じ、また農業の魅力にも触れる機会になったと思う」と話していました。



「田植え作業」の様子

【一口メモ】主食1食あたりに要する費用の比較（試算）

			
ご飯1杯 (140g、精米65g) 56円	うどん1杯 (生麺150g、220g) 88円 ※麺のみの価格	食パン2枚 (1枚65g) 69円	パスタ1皿 (220g、乾麺100g) 67円 ※麺のみの価格

出典：農林水産省「令和7年産に向けた水田農業の取組方針」

※小売物価統計（総務省）は、東京都区部における2025年1～3月の年間平均値を使用。

＜同等のカロリーを摂取する場合の試算＞

	1食分重量 (摂取ベース)	1食当たり カロリー	1食分価格	小売物価統計 [※] (2025年 1～3月平均)
ごはん	205g (精米95g)	342kcal	¥82	¥4,282/5kg コシヒカリ以外
うどん	246g ※麺のみの価格	342kcal (うどん一杯強)	¥98	¥599/1kg
パスタ	217g ※麺のみの価格	342kcal (パスタ一皿分)	¥66	¥667/1kg
食パン	138g (約2.1枚分)	342kcal	¥74	¥534/1kg

本紙は、日本の“食”に欠かせない“米(コメ)”に向けた取組について考える材料としてご活用ください。
また、当拠点では農林水産データの活用支援を行っています。遠慮なくご相談ください。

＜ニッポンフードシフト＞

「食」から「農」について自ら考えていただくことで、将来の「食」「農」を守っていく取組です。

主に、次世代を担う若い世代をターゲットとして情報を発信しています。

<https://nippon-food-shift.maff.go.jp>



＜みどりの食料システム戦略＞

食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する「みどりの食料システム戦略」に取り組んでいます。

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/index.html>



東北農政局岩手県拠点
岩手県盛岡市盛岡駅前北通1-10
019-624-1125

MAFF